

国際理解教育を求めて

第 60 号

発行 十勝地区国際理解教育研究会 代表 川上 裕明
担当 広報部（鹿追町立瓜幕小学校内）

「いつまでも『発見』を！」

十勝地区国際理解教育研究会
会長 川上 裕明
(帯広市立大空小学校)



1996 年秋、私は寶馬山の中腹にある香港日本人学校中学部の玄関前から、眼下に架かる虹を見ていました。学校のお掃除担当、黄さんが私に話しかけます。ちなみに黄さん、私の母に近い年頃のおばちゃんですが、親愛の情を込めて「黄姐（黄ねーさん）」と呼んでいます。

黄姐「川上先生、你睇邊度呀？（川上さん、何見てるの？）」

川上「嗰度虹呀。好靚。（あそこの虹ですよ。きれいですよねー。）」

黄姐「係呀！川上先生係天氣先生呀！（ホント！川上さんは「お天気さん」ねー！）」

会ったときに、「今日はいい天気ですね！」と日本風あいさつから始める私をからかって、黄姐さんは「天気先生（お天気さん）」と呼びます。ちなみに、香港風あいさつなら決まり文句は「你食咗飯未呀？（もうご飯は食べた？）」。食事をとったか尋ねるあいさつは、アジア圏ではメジャーだとか。

川上「我識睇虹七色。（虹の7色がはっきりわかりますもんねー。）」

黄姐「哦？虹係五色呀。唔係七色……好多！（えー？虹は5色しよ。7色って……多すぎるし！笑！）」

川上「點解？（な、なんで？）」

黄姐「你知唔知彩虹 MTR 站？嗰度有五色虹呀！（地下鉄『彩虹』駅の壁も5色の虹だし！）」

毎冬に商工会の蛇食パーティーに連れて行ってくれる黄姐さんの言うこと、ここは引きましたが。いまいち釈然としない……。調べてみると、虹が何色に分かれていると見るかは文化によって異なるようです。日本の浮世絵に描かれていた虹は、2色や3色だったりぼかしたグラデーションだったりです。

「虹」と聞いて誰もが思い出すのは、ハードロック界きってのリフメイカー、リッチー・ブラックモア率いる Rainbow ですが、アルバム「Ritchie Blackmore's Rainbow（邦題『銀嶺の覇者』）」「Rising（邦題『虹を翔る覇者』）」どちらのジャケットに描かれている虹も、くっきり5色。最初に「虹=7色」としたのはニュートンだとか。しかし、世界各国では「5色」どころか「3色」「2色」「そもそも何色かなんて考えたことがない」など、いろいろだそう。

世界は広い。旅行先で今までの「あたりまえ」の価値観をひっくり返され、びっくりすることがあります。その一方で、地球の裏側で出会った文化も人種も違う人に、「同じ人間なんだ！」と強く感じることもあります。世界は広く、そして狭く、人との出会いはやっぱり楽しく、新しい発見がいっぱいです。

ちなみに黄姐さん、香港地下鉄「彩虹」駅の壁に描かれている虹は6色でしたよ。

1月 8日(月) 北海道国際理解教育研究協議会 理事総会・研修会(書面開催)
帰国教員報告会(実践報告集配付に変更)
派遣教員研修会(派遣教員研修に変更)

2月20日(土) ○第3回役員会議

3月 3日(水) ○派遣教員激励会(激励訪問に変更予定)
○広報誌「国際理解教育を求めて」第60号発行

- 北海道国際理解教育研究協議会副会長 川上 裕明(大空小)
- 北海道国際理解教育研究協議会事務局次長 伊藤 道彦(柳町小)

研究部

研究部長 益子 忠行
(帯広市立若葉小学校)

○ 活動経過報告

8月 5日 十勝地区国際理解教育研究会役員会

10月29日 第1回研究部会

- ① 令和2年度研究概要について
- ② 令和2年度十勝地区国際理解教育研究大会での研究授業の指導案に係る協議・検討について
 - ・授業者 重堂 真也 教諭(帯広市立大空小学校)
 - ・授業者 板垣 知志 教諭(帯広市立大空中学校)
- ③ 令和3年度十勝地区国際理解教育研究大会に係る日程の確認について

11月13日 大空小学校での授業 ※授業内容を録画し、第2回研究部会で事後研を行う。
単元名「Pairing with キルギス ～同じ中の違い&違いの中の同じ～」

12月22日 第2回十勝地区国際理解教育研究会役員会

2月25日 大空中学校での授業 ※授業内容を録画し、第2回研究部会で事後研を行う。
単元名「ウイルスと人類の歴史～新型コロナウイルスの流行によるSDGsへの影響～」

3月18日 第2回研究部会

○ 令和2年度研究概要について

(1) 研究主題(3年次計画の1年目)

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成
～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

(2) 国際実践力の育成を目指して

問題が複雑化・高度化し「決まった正解」がない社会では課題を共有する人同士で試行錯誤し、身に付けた知識や技能を活用・発揮しながら、納得解や最適解を創り上げ解決していくことが大切である。「世界に対して何を知っているか」だけではなく「世界に対して何ができるか」「他者と協働して、いかに問題解決を行うことができるか」を学びのゴールとし、世界と様々な形で関わる授業づくりを通して、国際実践力を育む研究とともに、「いつでも、どこでも、だれでもできる国際理解教育・世界との関わり」という原点に立ち返りつつ、新たな研究を推進する。

○ 活動経過報告

(1) 8月5日 役員会出席

① R3北海道国際理解研究大会研修部（大会拠点部）活動計画について

→前回大会（平成24年度）活動内容確認

・前回大会活動内容

- 4月 大会拠点部メンバー選出終了
- 5月 大会準備計画の具体的検討、接待・案内計画策定、運営・司会・記録の検討
- 6月 会場校・十勝プラザとの打ち合わせ、運営・司会・記録の依頼
- 7月 掲示物・標示物の確認、会場図等提出
- 8月 児童・生徒の誘導案内計画の検討（授業校・会場校との連携）
- 9月 運営委員・司会・記録・助言者打ち合わせ（研究部との合同）、その他環境整備
- 10月 掲示物・標示物完成、駐車場完備、会場準備完了、児童生徒の誘導案内
- 11月 最終打ち合わせ・確認

② 帰国報告会を従来の対面式ではなく、3学期での紙面による情報交流、ならびに次年度に帰国される先生との合同帰国報告会の開催を確認。

(2) 12月22日役員会の出席

① 帰国報告紙面交流の具体的な実施方法の確認

○今年度、そして次年度の活動に向けて

このコロナ渦による活動の制限が厳しい状況下で、皆が集い、密な状態で交流したり意見を寄せ合ったりすることが本当に難しかった。そんな中でも帰国された先生方を中心にメールや電話連絡などを密に行い、帰国報告会紙面交流の準備をすすめてきた。最後、様々な先生方と連絡を取り合いながら、紙面交流を成功させたい。

次年度はいよいよ帯広での国際理解教育の全道大会。部としての仕事を明確にして取り組む一方、お互いの動き、進捗度を確認し合い、声をかけ合い、助け合い・支え合いの気持ちをもって準備をすすめ本番を迎えたい。



組織部

組織部長 古村 俊大
(音更町立下音更中学校)

○活動経過報告

(1) 「世界のともだち 2020(NGO ブース)」

例年、参加しブースを出展。在外施設派遣を終えた教員による展示を行っていたが、今年度は実施できず

(2) 「国際理解教育研究大会展示ブースの開設」

研究会において、児童生徒への還元として授業内容に沿った国・地域の文化に触れるような展示物(『布』『楽器』『玩具』『衣装』など子どもが実際に手で触れられるもの)によって世界に触れる。

また、教員の授業へのアイデアの提供を考え、JICA 帯広から『開発教育教材』の展示などについて予定したが、本年度は実施できず

(3) 「小豆の会」

期日 令和3年2月20日

内容 高原 茂雄 校長における講話

実施方法 Zoom を利用したオンラインによる実施



広報部

広報部長 佐々木敦史
(鹿追町立瓜幕小学校)

○活動経過報告

(1) ホームページ更新と充実

ホームページを不定期で更新した。世界中がコロナ禍で、海外からの報告がほとんど無かった。オンラインでの交流が求められる状況の中で、ホームページの役割が重要になることが予想される。今後、充実したホームページになるように管理・更新して行く。

(2) 十勝地区国際理解教育研究会パンフレットの更新

基本的な内容は以前のものを活かし、写真を新しいものに更新した。ホームページからダウンロードできるようにし、word データ化した。

(3) 広報誌「国際理解教育を求めて」60号の発行

○『国際理解教育を求めて』第60号をお届けします。

○今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年通りの活動ができませんでした。来年度に予定されている北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会の開催準備も、感染状況を鑑みながら進めています。終息の見えないコロナ禍の中で、国際交流は難しい状況です。しかし、会員一人一人が持つ世界各国とのつながりを絶やさず、国際理解教育の充実を図る取組を進めて行きたいと思えます。

○これからも多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成をめざし、力を合わせて研究と実践を進めましょう